

論 文

痛みを伴う処置を 繰り返し受ける子どもの反応

輪島 裕子・内村 恵里子*¹・北林 外美栄*²

義本 純子*³・土田 美穂*⁴・中田 直美*⁵

堅田智香子*⁶・炭谷 みどり*⁷・津田 朗子*⁷

広瀬 育子*⁸・室山 利津子*⁸・井上 ひとみ*⁹・西村 真実子*⁹

公立宇出津総合病院 *¹石川県保健福祉部 *²石川県立中央病院

*³北陸学院短期大学部 *⁴金沢市立病院 *⁵七尾看護専門学校

*⁶国立療養所富山病院附属看護学校 *⁷金沢大学医学部保健学科

*⁸金沢大学医学部附属病院 *⁹石川県立看護大学

Children's Responses to Painful Medical Procedures Repeat

Yuko Wajima, Eriko Uchimura*¹, Tomie Kitabayashi*²,
Junko Gimoto*³, Miho Tsuchida*⁴, Naomi Nakada*⁵,
Chikako Katada*⁶, Midori Sumitani*⁷, Akiko Tsuda*⁷,
Ikuko Hirose*⁸, Ritsuko Muroyama*⁸, Hitomi Inoue*⁹,
and Mamiko Nishimura*⁹

Public Ushitsu Hospital

*¹Ishikawa Prefectural Health Welfare Part

*²Ishikawa Prefectural Central Hospital

*³Hokuriku Gakuin Junior College

*⁴Kanazawa Municipal Hospital *⁵Nanao Nursing School

*⁶Toyama National Sanatorium Nursing School

*⁷School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University

*⁸Kanazawa University Hospital

*⁹Ishikawa Prefectural Nursing University

要 旨

採血や点滴注射などの痛みを伴う処置を受ける子どもの不安や恐怖の客観的な測定は子どもの言語能力の未熟さのために困難を極めていた。そこで同一児が処置を受ける過程に示す反応の変化を指標にして、ケアの効果を判定できるのではないかと考え、痛みを繰り返し受ける過程を観察した。

その結果、痛みを伴う処置を繰り返し受けることで、「音刺激に反応して見るようになる」、「言葉が出る・増える」、「身体の動きがスムーズになる」などの37項目の変化が見られた。また、処置回数を3回、4回と重ねる過程においては、「身体の動きがなくなっていたのが再び出てくるようになる」「音刺激に反応していたのがしなくなる」「泣かなくなっていたのが再び泣くようになる」という「戻り現象」が観察された。これらは小児医療に携わる者に、子どもの反応を見る視点を明確に提供する。